



【学校教育目標】自ら考え、判断し、人と共により良く生きようとする心豊かな子供の育成

新年度がスタートして三か月目に入りました。子供たちも教職員も新しい環境に慣れてきて、「さあ、これからが本領発揮!」と気持ちを引き締めているのではないかと思います。緊張しながら入学した一年生も、今ではすっかり小ヶ倉小学校の一員になっています。これからの季節、気温や湿度が上がり、熱中症が心配になる時期を迎えます。本校でも、実情に合わせながら、ガイドラインに沿って熱中症対策をしていきます。また、梅雨の時期に入ります。各御家庭における「災害対策」を今一度御確認いただければと思います(緊急時の学校の対応は次号に記載します。)。御理解と御協力をお願いいたします。

【学校からの連絡(通信等)について】

保護者連絡ツール『teturu(テトル)』の活用を初めてから3年目となります。本校においても、皆様の御協力のもと、欠席連絡等の活用が定着しています。

そこで、今後の活用方法として、学校からのお知らせ(学級通信等も含む)も「teturu」での配信とさせていただきます。これまで、学校や育正会からの連絡で一部活用していましたが、紙の文書の場合、保護者の皆様へ配付漏れ(行き渡らないケースや、期日を過ぎてから受け取るケース)もあり御心配をおかけしたところもあったようです。

つきましては、今後は、通信を含む全ての配付文書は、順次「teturu」配信へ切り替えます(6月中旬に完全移行)。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

ただ、これまでの「teturu」の閲覧状況を見ると、配信した情報を御覧になれていないこともあるようです。今後は、緊急のお知らせ等も有りますので、必ず内容の御確認をお願いします。



校内での写真撮影について

本校では、授業参観等における、写真・動画の撮影は御遠慮いただいています。これは、主に、以下の3つの理由からです。

- 児童の集中力に影響し、授業の妨げになることがあるため。
- 個人情報保護に関する問題が生じる可能性があるため
- 他の保護者の方が、参観しづらい状況になるため。



保護者の皆様は、子供の成長の姿・成長の過程を映像に残したいという気持ちから、お子様をカメラで撮影したいと思われるでしょう。特に、学校内での様子は目にする機会が少ないため、「行事や学習参観の機会には、しっかりと我が子の姿を映像に収めたい。」「見に来られない人のために、撮影したい。」という御要望があることも理解しています。しかし、写真・動画には、我が子以外の子供の姿も写り込みます。それが、一度インターネット上にアップロードされると、情報の回収が極めて困難となり、悪用の危険性も出てきます。

これは、授業中、休み時間を問いません。子供たちが活動している様子を、ファインダー越しではなく、肉眼でしっかりと見てあげてください。学校は、大勢の児童が集まって学習する「学びの場」です。児童が落ち着いて学習に集中できるように、御配慮くださいますようお願いいたします。

なお、「入学式・運動会・卒業式」については、例外的に撮影可としています。上記の主旨を十分御理解のうえ、撮影をお願いいたします。ただし、撮影したものをホームページ・ブログ・SNS・動画投稿サイト等、インターネット上にアップロードすることはおやめください。

裏面あり

教育週間について

先日からお知らせしていましたが「こがくらっ子の心を見つめる教育週間」を22日(日)から28日(土)までの期間実施いたします。

期間中は、28日(土)に「土曜授業(参観)」があります。その他の時間帯も自由に参観していただくことができます。ぜひ、足をお運びいただければと思います。

なお、28日(土)は学級懇談会も予定しています。1学期の学級の様子に加え「夏休みのくらし」など、子供たちの健やかな成長や安全な生活についてお話しさせていただきます。

ただ、授業参観終了から懇談会までに時間が空いてしまう学年(1・3・5年)がありますが、その時間帯も参観可能ですし、図書室を御利用になり、お待ちいただいても構いません。御迷惑をおかけしますが、できるだけ多くの方の御参加をお待ちしています。

なお、学級懇談会の時間は、子供たちは別室にて学習します。

また、今回も、児童の下校時刻に合わせて「100人パトロール」を実施いたします。保護者の皆様や関係者の方々に一緒に帰路についていただき、通学路をパトロールし、危険箇所の情報共有を行っていただければと思います。その情報をできるだけ改善に結びつけることができるようにしたいと考えています。また、単なる点検活動ではなく、地域住民同士のつながりを深めることも大きな目的の一つです。そのことが、子供たちの見守りにつながっていくと考えています。土曜のお昼時で大変かと思いますが、ぜひ御参加いただきたいと考えています。



「苦手」にチャレンジ！

昨日（3日）、6月の全校集会を行いました。校長講話では、次のようなことを伝えました。

今月のテーマは「伸びる（チャレンジ・確認）」です。これまでも、「学校はチャレンジするところ。失敗したっていい。チャレンジすることが大切。チャレンジしないと失敗もできない。失敗してもチャレンジをあきらめない、そういう粘り強い人になって欲しい。」ということは繰り返し伝えていました。そこで、今回は次のように話しました。

〈6月の校長講話から抜粋〉

- 5月の運動会までの頑張りと成果を、より確かなものとし伸ばしていこう。
- そのためには、「チャレンジ」することと「ルール等の再確認」が大切である。
- 「チャレンジ」には「得意なことへのチャレンジ」と「苦手なことへのチャレンジ」の2通りがあるということ。
- 「得意なことへのチャレンジ」というのは、楽しいし、やりがいもある。しかし、時として他人と比べて自分はできるとか、できないとかということで、喜んだり落ち込んだりすることもある。人と比べてできていれば嬉しくなり、それを自信にする反面、自分よりできている人を見ると落ち込んで、やる気を失ってしまうということがあるかもしれない。自分よりあの人はできるとしたら「その人を目指して頑張ろう」というのが、本当の「得意なことへのチャレンジ」である。
- 「苦手なことへのチャレンジ」は、人と比べることはあまりない。「苦手へのチャレンジ」で比べるのは「ちょっと前の自分自身」である。
- 「苦手」というのは、「自分が勝手にできないと思い込んでるだけ」のことが多かったり、「チャレンジしたことがない」ことからの不安が原因だったりする。
- 自分を高めよう、よりよい自分になろうという心が「苦手にチャレンジ」する自分を支える。
- 「苦手にチャレンジ」することは、自分自身を磨くこと。
- よりよい生活のために「ルールとマナーの確認」をしよう。
- 「ルール」とは、「守らなければならない規則・決まりごと」のこと。「マナー」とは、「守ったほうが良いきちんとした態度・礼儀」のこと。
- その一つ一つに大切な意味がある。
- 楽しく安全に生活するためには、してはいけないこと、逆にしなければならないことがある。
- それをみんなが頑張ることで、学校全体がよくなっていく。

近頃の子供たちは、「こんなことをしても意味はないよ。」とあっさりとかきめることが多い気がします。だからこそ「難しいこと大好き。これをやるときっとできることが増えるぞ。」と進んでチャレンジできる子になってほしいと考えています。「やらない」という道を選ぶより、「挑戦を楽しむ」という思いをもってほしいのです。

「やらない」を選択した人は、自分の能力は変わらないと思っているから、自分が得意なことやできることを繰り返しやっています。この場合、自分が人より優れていると思うことで安心します。そして、優れていることで、人から尊敬され大切にされることを期待します。この人にとって、失敗はそれぞれ一大事です。できない人と思われてしまいます。この人にとって失敗は、時に全てを失った気になってしまいます。だから、だんだん挑戦しなくなります。したとしても、自分のできる範囲の中での挑戦しかしません。

それに対して、「挑戦を楽しむ」を選択できた人は、努力すれば人はいくらでも伸びると信じていますから、失敗しても落ち込んだりしません。つまりきを失敗とは考えず、何かを学び取るチャンスだと思えるのです。スタートは一緒でも、前者（A）の考えで生きるか、後者（B）の考えで生きるかで、未来が大きく変わってきてしまいます。自分がどちらかは、こんな時にはっきり出ます。

ちょっと友達にそっけなくされたり、先生や親から注意されたり、思うような成績でなかったり、何かに失敗してしまったり・・・。Aの人は、こうしたとき落ち込み怒ります。そして、自分はだめだと落ち込んだり、「あの人が悪い」「あの人は分かってくれない」と相手を責めたりしてしまいます。Bの人は、少々落ち込むことはあっても、何に気をつければいいのか分かったからもう失敗しないようにしようと、前向きになれます。自分をだめだなんて決めつけたり、あきらめたりしないで、失敗を恐れず努力を続けていくのです。

私は、これまで、子供たちに「いろんなことに挑戦しよう。」とか「失敗することを恐れてはいけません。失敗を恐れて挑戦しない方が失敗です。」ということ伝えてきました。それは、人は努力次第でいくらでも未来を切り開いていけると、一人一人に無限の可能性を感じているからです。自分の可能性を一番信じなくてはいけないのは、自分自身のはずです。1学期も後半に入ります。一人一人の子供たちにとってよいチャレンジをして1つでも多くの成果を上げることができるよう励ましていきます。御家庭でも、支援の声掛けをよろしく願いいたします。

